



# 「金沢のにし」を歩く

茶屋街と寺院群、文学の匂い、そして……美しき流れ  
金沢のさり気ない魅力に浸る旅

茶屋街の出格子が続く石畳。曲がりくねる薄暗い裏道。山門や土塀が続く寺院群。ゆるく曲がりながら下りていく坂。鋭く切れ落ちていく坂。陽を受けて輝く犀川の流れ。石垣沿いの狭い小道……

このあたりは、「金沢のにし」と呼ばれる。文学の匂いとともに、金沢の魅力がさり気なく漂う。

にし茶屋街に駐車場ができて、アクセスがより便利になりました。

# 金沢のゆったりとした時の流れを感じています。

ガラガラッと茶屋の格子戸が開く。

出てきたのは、

着物の髪をひつまめに結った若い女性。

はんなりとすれ違う刹那、

ふわりとおしろいの匂い。

寺が肩を寄せ合う路地裏で

自然に古びてゆく板塀の色に見とれる。

中野町

女

1

5

ほっこりとした顔のお地藏様に手を合わせる。

ゆったりと過ごした二日の終わりは

はまぐり坂の途中あたりで、芭蕉ならぬ、

「あかあかと」「つれなくも」輝く西日を浴びようか。

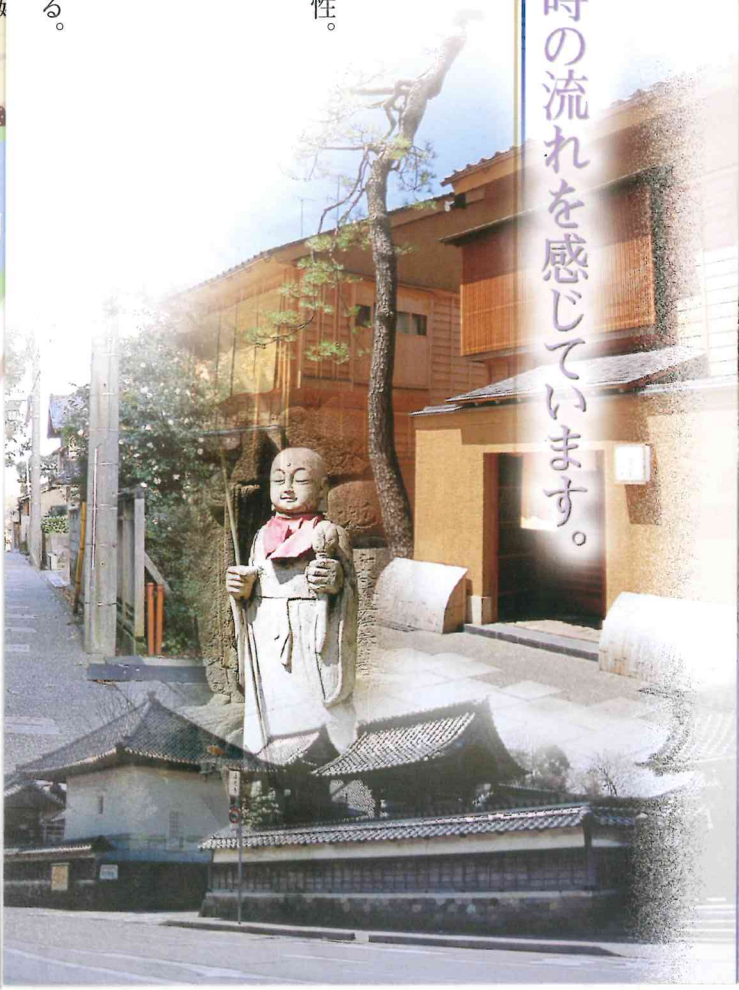
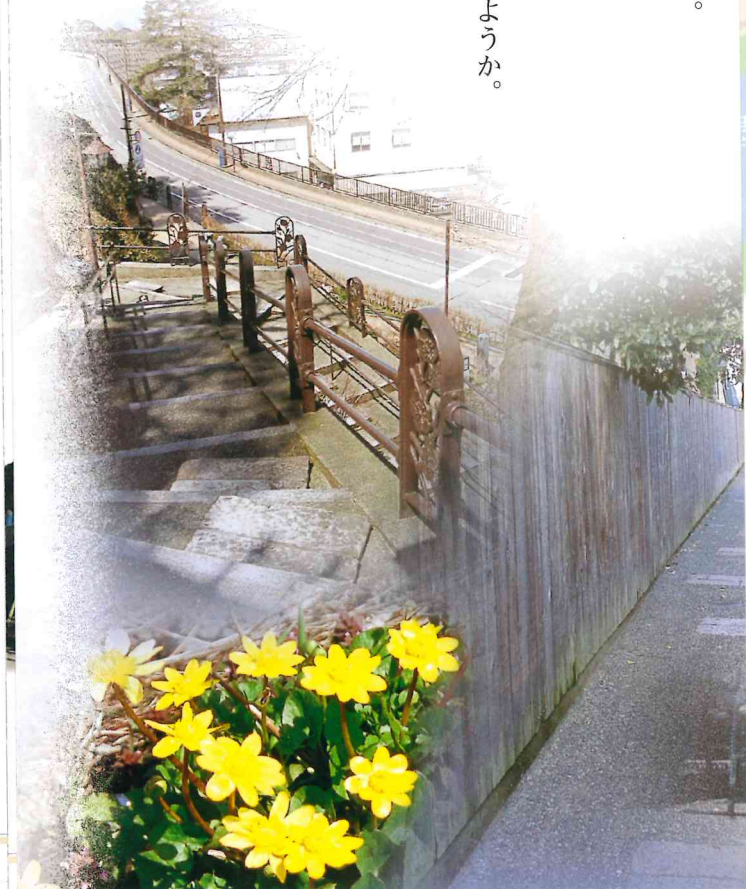
それとも犀星のように、

「赤赤しい夕焼 そのしたに

ぎつしりとつまつた街と家家」を

W坂から見晴るかそうか。

ここは、どんな道端にも文学が香り立つ町。





金沢の  
そぞろに  
歩き  
…  
…  
…  
…

ご案内

### にし茶屋街

茶屋の風情が味わえる  
華の宿  
島田清次郎文学碑  
「地上」第一部の終章の  
一筆が刻まれている

西料亭組合事務所  
(検番)国指定登録有形文化財  
「にし」の芸妓さんたちのけいこ場

西茶屋資料館  
大正のベストセラー  
「地上」の作者  
島田清次郎の生涯を紹介

大蓮寺  
豪姫ゆかりの寺

神明宮  
中原中也在幼い頃にサーカスを見たという神社

雨宝院  
犀星が青年期の頃まで育った寺

蛤坂  
犀川に向かってゆるやかに下る坂道

妙慶寺

芭蕉句碑  
「あかあかと日はつれなくもあきの風」

### 寺町寺院群

寺にはさまれた狭い道がつづく

願念寺  
芭蕉句碑あり  
「つかもうごけ我泣声は秋の風」

弘願院

妙立寺(忍者寺) 要予約

本長寺  
芭蕉句碑あり  
「春もやゝけしき調ふ月と梅」

真長寺

成学寺  
芭蕉句碑あり  
「あかあかと日はつれなくもあきの風」

常徳寺

宝勝寺

八阪神社

極楽寺

浄安寺

大桜(国天然記念物)  
松月寺

寺町五丁目緑地

中原中也文学碑  
「金沢の思ひ出」の一節が刻まれている

諏訪神社

本妙寺

妙典寺

大円寺

鐘声園

高岸寺

新桜坂  
犀川に向かってゆるやかに下る坂道

法光寺

長久寺  
芭蕉句碑あり  
「秋涼し手毎にむけや瓜茄子」

立像寺

本性寺

本因寺

新桜坂緑地  
犀川と金沢の市街地の眺望がよい

石伐坂(W坂)

井上靖文学碑

桜坂

室生犀星文学碑  
「あんずよ花着け……」の詩が刻まれている

### 長町武家屋敷跡

至 香林坊  
金沢21世紀美術館  
兼六園  
石川近代文学館

#### にし茶屋街へは

- 金沢西 I.C.より ……15分
- 金沢駅より ……バスで15分  
広小路下車
- 長町武家屋敷より…徒歩10分
- 兼六園より ……徒歩30分



### にし茶屋観光駐車場

TEL ● 076-280-1430

観光ボランティアガイド まいどさんは西茶屋資料館(076-247-8110)に常駐しています。

お気軽にご利用ください。  
お問い合わせ 金沢市観光交流課(076-220-2194)

# にし茶屋街

吹き放しの縁側から流れてくる  
さざめくような笑い声と遠い笛の音。



## にし茶屋 味めぐり



にし茶屋街には、お蕎麦屋さんや甘納豆のお店、そして、ちょっとユニークな豆腐のソフトクリームを作っているお豆腐屋さんなどがあります。もちろん、抹茶や和菓子を出してもらえるお茶屋さんもあって、そぞろ歩きの合間のお食事や休憩に便利です。

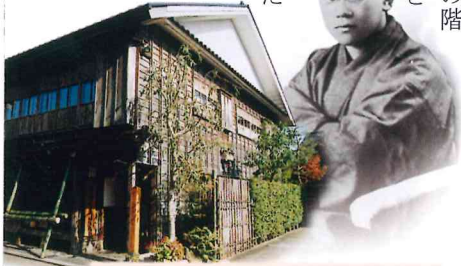


## た

つぶりとした道幅のせいだろうか、にし茶屋街の石畳の道には泰然とした空気と時間が流れていた。同じようでも一軒ごとに太さもすき間の間隔も異なる格子造りの茶屋の佇まいをゆったりと眺めながら歩く。整然とした家並みの一番端に西茶屋資料館があった。

資料館の玄関のたたきを上がると、吹き抜けの空間には大正時代に小説『地上』を上梓して一躍ベストセラー作家となった島田清次郎に関する資料や直筆の原稿が展示されている。幼い時に父を亡くした清次郎は、祖父のもとに身

目が奪われる。ふと、清次郎はどんな思いで茶屋街で暮らしていたのだろうと思う。突然、茶屋街のことがもつと知りたくなって、一服もできるといふ「華の宿」へと向かう。玄関を入るとピカピカに磨き上げられた漆塗りの階段。その幅広の造りは客と芸妓が一緒に昇るためだという。かつては金よりも高価だったという青の顔料を使った「群青の間」に通される。かすかに流れてくる笛の音に耳を傾けていると、今がいつの時代なのかわからなくなってくる。



## 西茶屋資料館

金沢市野町2-25-18 ☎(076)247-8110  
入館無料●無休 9:30~17:00まで  
※金沢観光ボランティアガイドまいどさん常駐

にしは、さまざまな表情が適度な広さの中でおさまっているといった感じだ。茶屋街のはずれにある、かつての検番の前に差し掛かると、その時代がかった建物が、いっそうその思いを深くさせた。



を寄せ、この場所にあった茶屋「吉米楼」で育つ。貧乏をこの地上から無くすことを夢見た清次郎。「夜空に放った赤い風船は今何処に流れてゐるのだろうか」の一文が心に焼き付く。  
二階には茶屋の座敷が再現されている。金屏風、朱壁、螺鈿をちりばめた飾り棚、蒔絵の座卓…。見事な調度品に

# 寺町寺院群

輝く黒瓦、土塀越しの大木、  
芭蕉もきつと見上げた景色がある。



<成学寺所蔵>

## 寺町 散策三昧

金沢には、藩政時代に作られた三つの寺院群があります。卯辰山山麓、小立野、そして、ここ寺町です。どの寺院群も、それぞれに独特の風情があり、散策にぴったりのエリアとなっています。

寺町寺院群は、三つの中でも最大規模を誇り、大小70以上の寺が集められた寺院群です。ゆったりとした心持ちで、静かな散策が楽しめます。



かりの寺だという。東北の旅を終えた芭蕉は、一笑に会うことを楽しみに北陸路に分け入る。しかしすでに他界していた一笑、芭蕉の慟哭が聞こえてきそうな「つかもうこけ我泣声は秋の風の句がぼつねんと建つ。カリンの木の下には「こころから雪うつくしや西の雲」の一笑辞世の句を残して晴れやかに逝った一笑の死が、心を軽くする。弘願院入り口の千仏供養塔に手を合わせ、角を曲がれば、比較的大きな寺や茶店が軒を連ね

る寺町のメインストーリーだ。左に「忍者寺」で知られる妙立寺がある。西方寺の地蔵堂でしゃがみ込みながら祈る婦人に出会う。地蔵の石を煎じて飲ませると子の病が治るといふ飴買ひ地蔵。形がなくなるほど削り取られた地蔵の顔が無性に愛くるしく見える。

老松が張り出す國泰寺



## 妙立寺(忍者寺)

金沢市野町1-2-12  
☎(076) 241-0888 ※要予約  
拝観料●800円 不定休  
9:00~16:30  
(11月下旬~3月初旬は、16:00まで)

訪れたのだろうか…。  
足下で名もない花がそよ風に揺れている。

の土塀を曲がると、ぼつかりとした空間。火除け地として設けられた六斗の広見だ。その一面には二代藩主・前田利長夫人で、織田信長の四女でもある永姫ゆかりの玉泉寺がひっそりとある。お姫様もここを訪れたのだろうか…。

鍵型の細い道を折れ曲がり、バス通りを渡ると、再び延びる小路。プロツク塀とお寺の石垣道に吸い寄せられるように歩を進めると、突然現れる寺の大屋根。塀越しに頭をのぞかせる墓石や卒塔婆。思わず息を潜めたりしながらも、なぜか心が安らぐ小路。ああ、ここが寺町なのだ。とつぶやく。そんな裏道に建つ山門をくぐる。築山のような庭のこしらえや侘びた樹木。小体ながら趣深い寺だ。この願念寺は松尾芭蕉の弟子、小杉一笑ゆ

日蓮大菩薩奉安 妙立寺

# 寺町の道、坂……

寺町台地のでっぺんで深呼吸、  
四高生のように階段を闊歩して降りる。



## 「幾

時代かがありまして  
茶色い戦争ありまし  
た」の書き出しで始まる中原  
中也の詩「サーカス」。昭和  
初期のダダイズムの詩人中原  
中也が、しばらくの間金沢に  
住んでいたことは意外に知ら  
れていない。ゆあーん ゆよ  
ーんと物悲しい音色を響かせ  
た空中ブランコ。その詩の舞  
台は、あぶり餅神事で地元  
親しまれている神明宮だっ  
たとも言われている。

神明宮からほど近い  
野町広小路の交差点を  
曲がり、緩やかな勾配  
に沿って大寺院が建ち  
並ぶ大通りを登っていく。

導かれるままにまっすぐに延  
びる板塀の小道を行く。何か  
大いなるものへと向かうプロ  
ローグのような道。板塀の終  
焉とともに目の前に現れるの  
は、せいせいするほどの視界  
だ。滔々<sup>たうたう</sup>と流れる犀川の向こ  
うの金沢。この町を守るため  
に寺町はあったのだと思い、  
ふと空を飛びたくなるような  
高揚感を覚える。四高生だっ  
た頃の作家井上靖になったつ  
もりで「胃にこたえる」W坂  
をトントントンと勢いよく降  
りてみる。犀川から吹き上げ  
られる風が頬に心地いい。さ  
あ、室生犀星の文学碑は桜橋  
を渡ればすぐそこだ。

## 寺町 坂道

寺町台地か  
ら犀川方向に下  
る道は、それぞれ  
特徴のある坂道は  
かりです。金沢は  
坂道が多いこと  
でも有名ですが、散策  
に彩りを添えてく  
れる坂道の存在が、  
楽しさもまた増し  
てくれます。

## 大円寺

金沢市寺町5-3-3 ☎(076) 242-2635  
拝観料●500円 無休  
9:00~17:00  
※駐車場あり

## 伏見寺

金沢市寺町5-5-28 ☎(076) 242-2825  
拝観料●300円 不定休  
8:00~17:30(11~3月は9:00~17:00)  
※駐車場あり



すると突き当たるのは、土塀  
を割って張り出している松月  
寺の御殿桜。かつて殿様の一  
行も槍を伏せて通ったという  
樹齢三百年の大桜。苔むす幹  
を回り込んで進むと、大円寺  
の隣に小公園「鐘声園」があっ  
た。「残したい日本の音風景百  
選」にも選ばれる寺町。園内  
で佇んでいると、澄んだ鐘の  
音。心の底にあったモヤモヤ  
した思いがスッと消えていく。  
寺町の標高もだいぶかせい  
だあたりに「W坂へ」の標識。

# 室生犀星と犀川

犀川と金沢を愛した室生犀星、  
その心にふれてみたい。

## 犀川

うつくしき川は流れたり  
そのほとりに我は住みぬ  
春は春、なつはなつの  
花つける堤に座りて  
こまやけき本のなさけと



**室** 生犀星の文学碑が建つ緑地公園で、流し雛を象った愛らしい詩碑と向かい合う。碑に刻まれた『小景異情』

の一節「あんずよの」を、口ずさむ。  
花着け地ぞ早に輝け  
「犀星のみち」と名

づけられた川沿いの道を歩いていると、堰止めからうるさいほどに立ってくる水の音。「したりり止まぬ日のひかり」を受けて輝く水面。犀星の写実性に富んだ詩はこの景色から生まれているのだと確



## 雨宝院

金沢市千日町1-3 ☎(076)241-5646  
拝観料●300円  
9:00~18:00 毎月10日休館

信する。犀川大橋下を回り込み、『性に眼覚める頃』で「私」犀星が通っていたかもしれない「瀬へと出られる石段」を登る。いよいよ犀星が青年期までを過ごした雨宝院だ。旧加賀藩士とその屋敷に働く女性の間にも生まれた犀星は、生後間もなく雨宝院へ預けられたのだ。「まよひ子」の文字を刻む石碑が示す通り、かつて雨宝院は捨て子や迷子を預かる寺として知られていた。まだ見ぬ母への想いと、行き場に困

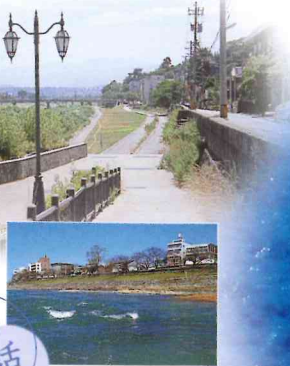
愛とを知りぬ

いまもその川ながれ

美しき微風ととも

蒼き波たたへたり

「抒情小曲集」より  
大正7年(1918)



## 犀川小話

金沢には、東に浅野川、西に犀川という二つの流れがあります。そして、浅野川が『女川』と呼ばれているのに対して、犀川は『男川』と呼ばれています。犀川は浅野川と比べ、広々として開放的なイメージがあるからです。

流れに沿った『犀星のみち』を歩きながら、しばし、「ふるさとを詠む詩人」になってみてはいかがでしょうか……

るほどの思春期の感情を、犀星はこの寺で、ひとりもてあましていたのではないか……。そんな犀星を慰めたのは、まぎれもなく犀川だったのではないか……。ほの暗い本堂に座っている、いろいろな想いが沸き上がってくる。犀星とまだ別れ

がたくて、犀星記念館へと足を延ばす。犀星の一字一字刻むような丸みを帯びた筆跡を、ひたすら目で追いかける。

にし茶屋街へと繋がる石垣の道歩く。覆い被さってくるような石積みみの向こうの空



＜室生犀星記念館所蔵＞



## 室生犀星記念館

金沢市千日町3-22 ☎(076)245-1108  
入館料●300円  
9:30~17:00(入館は16:30まで)  
年末年始(12/29~1/3) 展示替期間休館

を渡る雲。金沢ゆかりの文学者たちも、細い裏道からこんな光景を見上げていたに違いない。そう思うと、凜とした寂しさみたいなものを共有したよう、急に満たされる。